

2019年3月期 決算説明資料

2019年4月25日
神奈川中央交通株式会社



一般旅客自動車運送事業

乗合業においては、2018年3月のイオンモール座間開業に伴い、小田急相模原駅および南林間駅からの直行便を運行開始したことなどにより増収となりました。また、お客さまがスムーズに乗降しやすいノンステップバスを148両導入するとともに、5月に辻堂駅北口～湘南ライフタウンおよび慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス間の2系統の路線において連節バス「ツインライナー」による急行運転を開始したほか、9月には空港リムジンバス「田村車庫・本厚木駅～羽田空港線」において東名大和バス停への乗り入れを開始しました。さらに、2019年2月に湘南ライフタウンより藤沢市の交通空白地域である石川地区への運行を開始するとともに、3月には神奈川中央交通西(株)にて東武バスウエスト(株)と共同で藤沢・辻堂・本厚木～川越方面への都市間高速バス路線の運行を開始するなど、さらなる輸送の効率化および利便性の向上を図りました。

貸切業においては、神奈中観光(株)にて、車両の代替に合わせバリアフリーに対応した車椅子リフト付車両を増車し利便性向上を図りました。また、積極的な営業活動に努めたことで旅行エージェントからの受注が増加したことなどにより稼働率が向上し増収となりました。

乗用業においては、高齢の方や車椅子ご利用の方など、さまざまなお客さまが利用しやすいユニバーサルデザインの次世代型タクシー「JPN TAXI（ジャパntaxi）」の導入を推進し利便性向上を図ったほか、送迎に加えマタニティや付き添いが必要な方などお客さまのニーズに合わせたサービスを提供する「さぼーとタクシー」の利用が順調に推移しました。また、2017年8月より導入したスマートフォンアプリや音声自動受付（IVR）による無線配車サービスの利用者数が増加したものの、乗務員不足による稼働減が影響し減収となりました。

以上の結果、一般旅客自動車運送事業全体の売上高は59,249百万円（前期比0.4%減）、営業利益は2,838百万円（前期比5.6%増）となりました。



連節バス「ツインライナー」



藤沢・辻堂・本厚木～川越方面への都市間高速バス

不動産事業

分譲業においては、伊勢原市桜台にて小田急不動産㈱およびセコムホームライフ㈱とのマンション共同事業「リーフィアレジデンス伊勢原」の販売を前期に引き続き行うとともに、藤沢市羽鳥にて大和ハウス工業㈱および㈱長谷工コーポレーションとのマンション共同事業「プレミスト湘南辻堂」の販売を進めました。また、横浜市磯子区洋光台にて5月より開始した戸建分譲を完売するとともに、2019年1月より茅ヶ崎市室田および横浜市旭区さちが丘にて戸建分譲を開始したことなどにより増収となりました。

賃貸業においては、前期に新規テナントが入居した「厚木第一ビル」および「相模大野ビル」の賃貸収入が通期寄与したことに加え、9月より「港南中央ビル」に新規テナントが入居したほか、2019年1月より新たに「平塚市浅間町貸店舗」の賃貸を開始したことなどにより増収となりました。

以上の結果、不動産事業全体の売上高は6,671百万円（前期比12.6%増）、営業利益は2,427百万円（前期比8.6%増）となりました。



茅ヶ崎市室田戸建分譲（イメージ）



12月にフルモデルチェンジしたメルセデス・ベンツ「Aクラス」

自動車販売事業

自動車販売事業においては、神奈中相模ヤナセ㈱にて、6月にフルモデルチェンジしたメルセデス・ベンツ「Gクラス」や「CLSクラス」および12月にフルモデルチェンジした「Aクラス」などの新車に加え、中古車の販売が順調に推移しました。また、神奈川三菱ふそう自動車販売㈱にて、8月にマイナーチェンジした小型トラック「キャンター」の販売が順調に推移するとともに、整備部門において積極的な営業活動により受注が増加したものの、大型バス代替需要の減少により減収となりました。

以上の結果、自動車販売事業全体の売上高は30,985百万円（前期比0.9%増）となりましたが、販促活動の強化に伴う宣伝広告費の増加などにより、営業利益は297百万円（前期比8.1%減）となりました。

その他の事業

流通業においては、(株)神奈中商事にて、バスICカードシステム機器の代替受注により部品販売が増加したことに加え、原油高の影響に伴い燃料の販売単価が上昇したことなどにより増収となりました。

ビル管理業においては、横浜ビルシステム(株)にて、大型商業施設の清掃管理業務や公共施設の設備管理業務を新規受注したことに加え、前期に受注したオフィスビルの設備管理業務が通期寄与したことなどにより増収となりました。また、(株)アドベルにて、前期に受注したリゾートホテルに付帯するスパ施設の清掃業務が通期寄与したことなどにより増収となりました。

商用車架装業においては、カブラ架装におけるオプション受注の増加などにより販売単価が増加したものの、競合他社との競争激化によりトラックメーカーへの部品販売が減少したことなどにより減収となりました。

レジャー・スポーツ業においては、(株)神奈中スポーツデザインにて、フィットネス部門やゴルフ場部門において積極的な営業活動により売上が増加しましたが、スイミング部門における新規会員数の減少などにより減収となりました。

飲食・娯楽業においては、4月に「ドトールコーヒーショップ相模原駅前店」をリニューアルし、顧客満足度の向上に努めました。また、9月には「らーめん花樂四之宮店」を業態変更し、新ブランドの「北海道らーめん麺処うたり平塚四之宮店」としてオープンし順調に推移したものの、TSUTAYA店舗における売上不振や閉店などにより減収となりました。

ホテル業においては、旅行エージェントへ積極的な営業活動を行い宿泊客が増加したものの、宴会部門の組数減や料飲部門におけるピザ店のデリバリーの売上が減少したことなどにより減収となりました。

以上の結果、その他の事業全体の売上高は31,183百万円（前期比2.9%増）となりましたが、各社におけるアルバイト・パート人件費の増加などにより、営業利益は1,284百万円（前期比14.3%減）となりました。



「中伊豆グリーンクラブ」



「ドトールコーヒーショップ相模原駅前店」

連結損益計算書 (1)

単位:百万円

	2019年3月期	2018年3月期	増減	摘要	2019年3月期 業績予想 (2018年4月公表値)	増減
売上高	114,809	113,763	1,045 (0.9%)	その他の事業 +886、不動産事業 +746 セグメント間消去 △628	116,200	△ 1,390 (△ 1.2%)
営業利益	6,606	6,481	125 (1.9%)	不動産事業 +191 一般旅客自動車運送事業 +150 その他の事業 △214	5,990	616 (10.3%)
経常利益	6,789	6,476	313 (4.8%)	営業外収益 +103	5,920	869 (14.7%)
特別利益	195	807	△ 612 (△ 75.8%)	補助金収入 △373 固定資産売却益 △198	240	△ 44 (△ 18.4%)
特別損失	631	742	△ 111 (△ 15.0%)	固定資産圧縮損 △373 固定資産除却損 +206	600	31 (5.2%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	4,089	4,236	△ 146 (△ 3.5%)		3,540	549 (15.5%)
1株当たり 当期純利益	332.64円	343.51円	△ 10.87円		287.05円	45.59円

減価償却費	6,379	6,355	24	
EBITDA	12,986	12,836	150	※営業利益+減価償却費
資本的支出	8,679	7,479	1,200	

当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

売上高

その他の事業は、流通業におけるバスICカードシステム機器の販売や燃料販売単価の上昇により増収。
不動産事業は、新築分譲マンション「プレミスト湘南辻堂」などの販売により増収。

営業利益

不動産事業における増収やテナントビル修繕費の減少により増益。

経常利益

営業利益の増加により増益。

特別利益

1	固定資産売却益	38百万円	車両売却益等
2	補助金	147百万円	乗合バス購入補助金等

特別損失

1	固定資産除却損	328百万円	バス営業所建替に伴う除却損等
2	固定資産圧縮損	144百万円	補助金による圧縮損
3	減損損失	106百万円	自動車整備業における整備工場移転に伴う用途変更等

連結貸借対照表

単位:百万円

	2019年3月期	2018年3月期	増減	摘要
流動資産	22,256	21,744	512 (2.4%)	受取手形及び売掛金 +542
固定資産	130,920	127,789	3,130 (2.4%)	有形固定資産 +1,848(リース資産 +2,438)
資産合計	153,176	149,533	3,642 (2.4%)	
流動負債	47,952	42,042	5,910 (14.1%)	1年内償還予定の社債 +5,000 リース債務 +346
固定負債	45,159	51,724	△ 6,565 (△ 12.7%)	1年内償還予定の社債 △5,000 長期借入金 △3,665、リース債務 +1,819
負債合計	93,112	93,767	△ 654 (△ 0.7%)	
純資産合計	60,064	55,766	4,297 (7.7%)	利益剰余金 +3,659
負債純資産合計	153,176	149,533	3,642 (2.4%)	

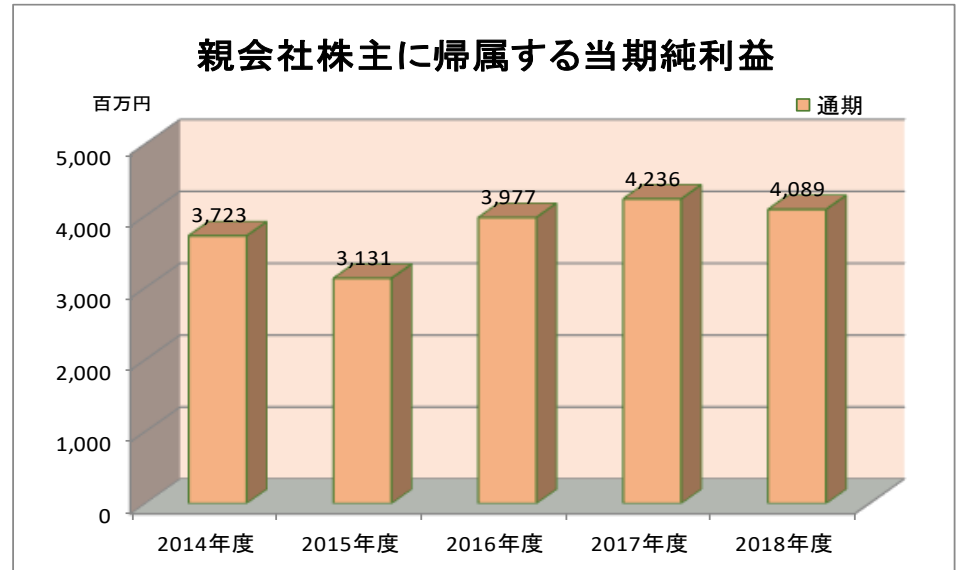
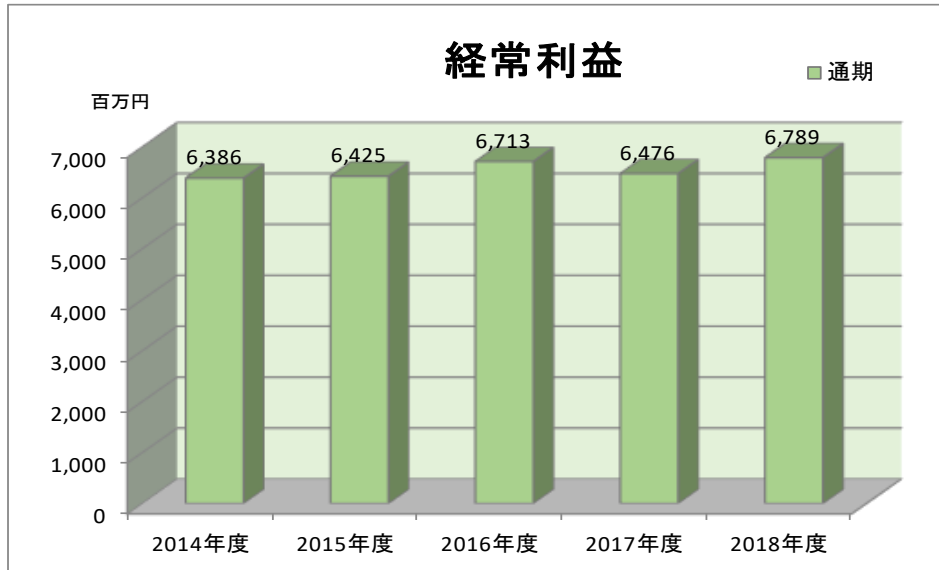
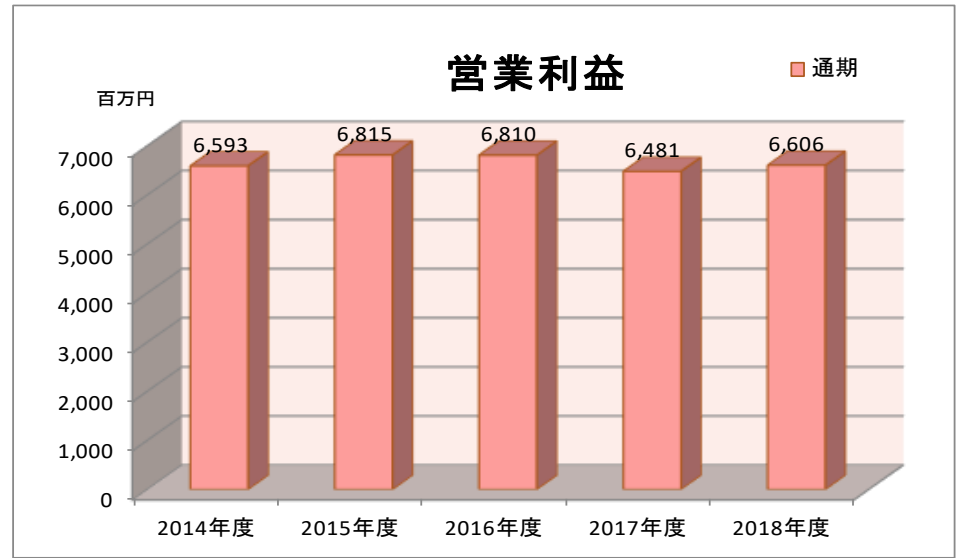
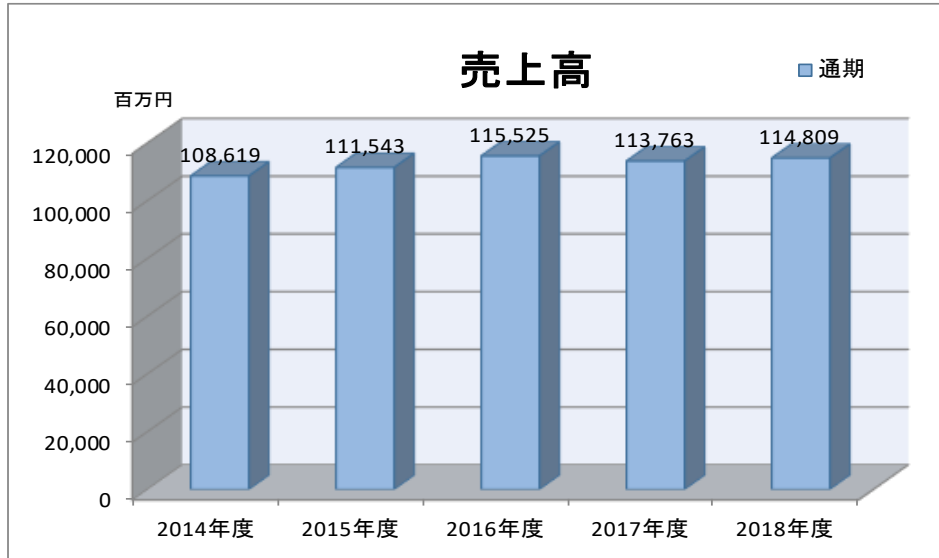
1株当たり純資産額	4,533.08円	4,178.53円	354.55円	
自己資本比率	36.3%	34.5%	1.8P	
有利子負債残高	46,979	50,480	△ 3,500	

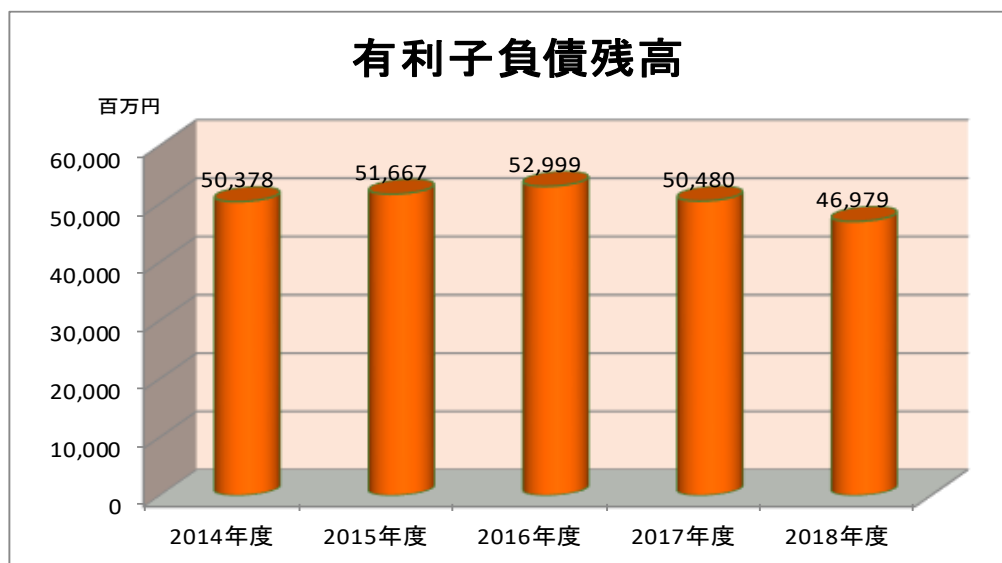
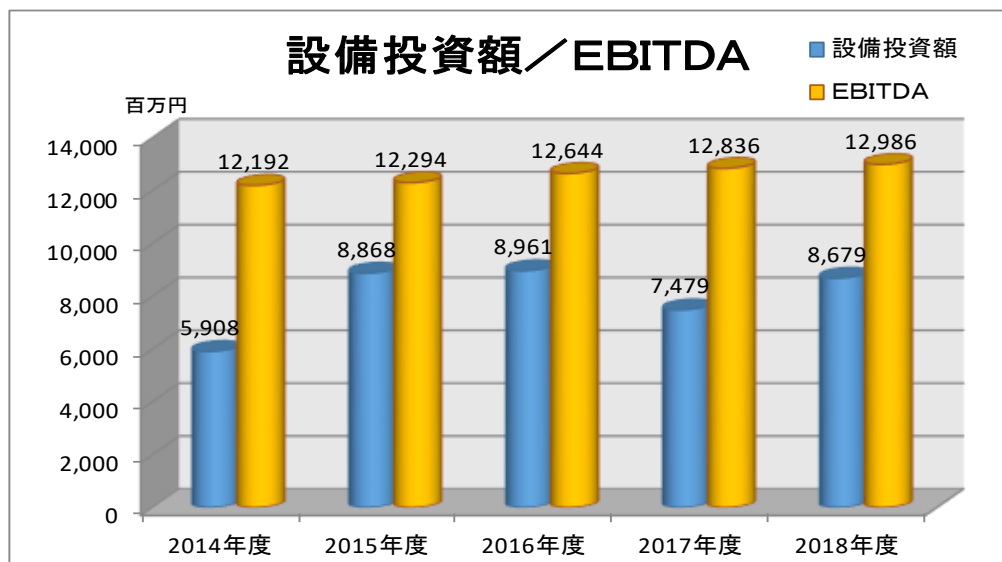
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、繰延税金資産は固定資産の区分に、繰延税金負債は固定負債の区分に含まれております。

なお、前連結会計年度の連結貸借対照表及び自己資本比率については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

単位:百万円

	2019年3月期	2018年3月期	増減	摘要
営業キャッシュ・フロー	10,375	9,970	404 (4.1%)	仕入債務の増減額 +1,504 売上債権の増減額 △847
投資キャッシュ・フロー	△ 4,937	△ 5,979	1,042 (17.4%)	固定資産の取得による支出の減 +1,363
財務キャッシュ・フロー	△ 5,110	△ 3,813	△ 1,296 (△ 34.0%)	長期借入による収入の減 △2,700
現金及び現金同等物の増減額	327	177	150 (84.5%)	
現金及び現金同等物の期末残高	2,795	2,468	327 (13.3%)	





神奈中グループ	子会社 24社、関連会社 3社
うち 連結子会社	24社
持分法適用会社	2社 (大山観光電鉄(株)、(株)小田急保険サービス)

《主な連結会社》

【一般旅客自動車運送事業】

神奈川中央交通(株)、相模中央交通(株)、神奈中ハイヤー(株)、神奈中観光(株)

【不動産事業】

神奈川中央交通(株)、相模中央交通(株)、神中興業(株)

【自動車販売事業】

神奈川三菱ふそう自動車販売(株)、神奈中相模ヤナセ(株)

【その他の事業】

神奈川中央交通(株)、(株)神奈中商事、(株)神奈中スポーツデザイン、
(株)アドベル、(株)神奈中情報システム、横浜ビルシステム(株)

単位:百万円

	2019年3月期	2018年3月期	増減	摘要	2019年3月期 業績予想 (2018年4月公表値)	増減
売上高	59,249	59,474	△ 224 (△ 0.4%)	乗合業 +332 貸切業 +24 乗用業 △581	60,010	△ 760 (△ 1.3%)
営業利益	2,838	2,687	150 (5.6%)	乗合業 +71 貸切業 +22 乗用業 +56	2,250	588 (26.1%)
資産	60,036	58,787	1,248			
減価償却費	4,541	4,522	19			
減損損失	-	2	△ 2			
資本的支出	5,838	6,337	△ 499			

【対前年】

売上高は、乗合業において輸送人員が増加したものの、乗用業において乗務員不足により稼働が減少し減収。
営業利益は、原油高の影響により燃料費が増加したものの、乗合業の増収に加え人件費の減少などにより増益。

※参考 乗合業輸送人員

単位:百万人

	2019年3月期	2018年3月期	増減率	摘要
定期外	181	181	△ 0.2%	
定期	66	64	3.2%	
合計	247	245	0.7%	

単位：百万円

	2019年3月期	2018年3月期	増減	摘要	2019年3月期 業績予想 (2018年4月公表値)	増減
売上高	6,671	5,925	746 (12.6%)	分譲業 +692 賃貸業 +53	8,140	△ 1,468 (△ 18.0%)
営業利益	2,427	2,235	191 (8.6%)	分譲業 +37 賃貸業 +154	2,530	△ 102 (△ 4.1%)
資産	42,699	42,615	83			
減価償却費	961	971	△ 9			
減損損失	2	21	△ 18			
資本的支出	1,197	216	980			

【対前年】

分譲業における新築分譲マンション「プレミスト湘南辻堂」の販売に加え、賃貸業において、新たに賃貸を開始した「平塚市浅間町貸店舗」が寄与したことや、修繕費の減少などにより増収増益。

単位:百万円

	2019年3月期	2018年3月期	増減	摘要	2019年3月期 業績予想 (2018年4月公表値)	増減
売上高	30,985	30,719	265 (0.9%)	商用車販売 △163 輸入車販売 +429	31,600	△ 614 (△ 1.9%)
営業利益	297	323	△ 26 (△ 8.1%)	商用車販売 +37 輸入車販売 △63	320	△ 22 (△ 7.1%)
資産	17,217	16,823	394			
減価償却費	306	314	△ 7			
減損損失	-	-	-			
資本的支出	327	527	△ 199			

【対前年】

商用車販売において、大型バスの代替需要が減少したものの、車両整備や部品販売の増収により増益。

輸入車販売においては、モデルチェンジした新車の販売に加え、中古車の販売が順調に推移したものの、販促活動の強化に伴う宣伝広告費の増加などにより減益。

※参考 新車販売台数

単位:台

	2019年3月期	2018年3月期	増減
トラック	2,051	1,957	94
バス	235	263	△ 28
輸入車	505	531	△ 26

単位：百万円

	2019年3月期	2018年3月期	増減	摘要	2019年3月期 業績予想 (2018年4月公表値)	増減
売上高	31,183	30,297	886 (2.9%)	流通業 +1,329 一般飲食業 △381	30,830	353 (1.1%)
営業利益	1,284	1,498	△ 214 (△ 14.3%)	サービス業 △198 商用車架装業 △67	1,300	△ 15 (△ 1.2%)
資産	36,207	32,970	3,236			
減価償却費	570	547	22			
減損損失	103	47	55			
資本的支出	1,523	601	921			

【対前年】

流通業におけるバスICカードシステム機器の販売や燃料販売単価の上昇により増収となったものの、サービス業における人件費の増加や商用車架装業における部品販売の減少により減益。

2020年3月期の業績予想

単位:百万円

	2020年3月期 業績予想	2019年3月期	増減	摘要
売上高	114,900	114,809	90 (0.1%)	
営業利益	5,760	6,606	△ 846 (△ 12.8%)	
経常利益	5,730	6,789	△ 1,059 (△ 15.6%)	
特別利益	140	195	△ 55 (△ 28.5%)	
特別損失	770	631	138 (22.0%)	
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,240	4,089	△ 849 (△ 20.8%)	
1株当たり 当期純利益	264.37円	332.64円	△ 68.27円	
減価償却費	7,150	6,379	770	
資本的支出	20,760	8,679	12,080	

【対前年】

不動産事業における戸建分譲や自動車販売事業におけるトラック販売台数増加などにより増収となるものの、一般旅客自動車運送事業において営業用車両や車載機器の代替などの設備投資により減価償却費が増加し減益。

セグメント別業績予想（一般旅客自動車運送事業）

単位：百万円

	2020年3月期 業績予想	2019年3月期	増減	摘要
売上高	58,950	59,249	△ 299 (△ 0.5%)	
営業利益	2,030	2,838	△ 808 (△ 28.5%)	
減価償却費	5,170	4,541	628	
資本的支出	13,770	5,838	7,931	

【対前年】

売上高は、乗合業における大型連休や大学の学部移転に伴う輸送人員の減少などにより減収。
営業利益は、減収に加え営業用車両や車載機器の代替などの設備投資により減価償却費が増加し減益。

※参考 乗合業輸送人員計画

単位：百万人

	2020年3月期 業績予想	2019年3月期	増減率	摘要
定期外	180	181	△ 0.5 %	
定期	65	66	△ 1.7 %	
合計	245	247	△ 0.8 %	

セグメント別業績予想（不動産事業）

単位：百万円

	2020年3月期 業績予想	2019年3月期	増減	摘要
売上高	7,170	6,671	498 (7.5%)	
営業利益	2,470	2,427	42 (1.8%)	
減価償却費	970	961	8	
資本的支出	1,310	1,197	112	

【対前年】

分譲業における戸建分譲の実施や賃貸業において前期に賃貸を開始した「平塚市浅間町貸店舗」が通期寄与することにより増収増益。

セグメント別業績予想（自動車販売事業）

単位：百万円

	2020年3月期 業績予想	2019年3月期	増減	摘要
売上高	31,480	30,985	494 (1.6%)	
営業利益	240	297	△ 57 (△ 19.2%)	
減価償却費	320	306	13	
資本的支出	2,090	327	1,762	

【対前年】

商用車販売におけるトラックの販売台数の増加により増収となるものの、車両整備や部品販売の減少、輸入車販売における一台当たりの車両売上高の減少などにより減益。

※参考 新車販売台数

単位：台

	2020年3月期 業績予想	2019年3月期	増減
トラック	2,351	2,051	300
バス	258	235	23
輸入車	549	505	44

セグメント別業績予想（その他の事業）

単位：百万円

	2020年3月期 業績予想	2019年3月期	増減	摘要
売上高	31,960	31,183	776 (2.5%)	
営業利益	1,380	1,284	95 (7.4%)	
減価償却費	680	570	109	
資本的支出	3,930	1,523	2,406	

【対前年】

流通業や情報サービス業におけるバスICカードシステム機器やドライブレコーダーなどの車載機器の代替需要により増収増益。

(参考) 個別業績予想

単位:百万円

	2020年3月期 業績予想	2019年3月期	増減	摘要
売上高	53,800	53,996	△ 196 (△ 0.4%)	
営業利益	3,630	4,126	△ 496 (△ 12.0%)	
経常利益	3,840	4,472	△ 632 (△ 14.2%)	
特別利益	90	214	△ 124 (△ 57.9%)	
特別損失	620	517	102 (19.9%)	
当期純利益	2,360	2,965	△ 605 (△ 20.4%)	
1株当たり 当期純利益	192.67円	241.22円	△ 48.55円	

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【問い合わせ先】

神奈川中央交通株式会社

総務部

TEL 0463-22-8800